

メディア教育研究

Journal of Multimedia Aided Education Research

Vol. 5 No. 2 2008

独立行政法人 メディア教育開発センター

National Institute of Multimedia Education

Chiba, Japan

「メディア教育研究」(第5巻第2号)の刊行にあたって

「メディア教育研究」は、メディア教育開発センターが平成16年4月に独立行政法人に移行したのを機に刊行を始めた学術研究誌で、多様なメディアを高度に利用して行う教育とそのための研究開発に関する学術研究上の成果を、論文、研究資料、研究開発速報などとして掲載しております。

このたび、「メディア教育研究」の第5巻第2号(通巻10号)を刊行いたしました。この号では、「多様な学生への支援：ICTを活用した高等教育のユニバーサルデザイン～聴覚障害者への支援を中心に～」を特集テーマとしており、このテーマに関する7件の招待論文と1件の研究資料を掲載することができました。コンピュータやインターネット、携帯などのICT(情報コミュニケーション技術)の高度化、高機能化、低価格化が進み、ICTを活用した高等教育のユニバーサルデザインのための方法が次々と開発され、実際の教育実践の場で使われることにより、教育の質の向上に役立っています。このような状況の中で、この特集号においては、これらのシステムの研究開発の成果と評価等を掲載することができました。これらの研究成果が多くの読者にとって参考になり、今後の教育の改善に役立てられることを期待しています。

また、本号には、一般投稿された原著論文として2件、展望論文として1件、研究資料として1件、また研究開発速報として3件掲載しております。

本号の論文等をご覧いただきますとご理解いただけると存じますが、「メディア教育研究」は多様なメディアを高度に利用して行う研究に関する学術研究誌として認められつつあります。これは、この分野の関係者のご関心の高さにご協力、ご支援のお陰と感謝しております。ご寄稿いただいた方々をはじめ関係者に厚くお礼申し上げます。

本センターとしましては、今後も、「メディア教育研究」の刊行と内容の充実を図ってまいりたいと考えております。様々な研究成果の公表の場としてご活用いただき、教育・研究者が研究成果を共有することによって、この学術研究誌が我が国の教育改革の一端となることを願っております。今後もより多くの研究者が投稿されることと、より多くの読者に活用していただくことを期待しております。

今後ともどうぞよろしくご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成20年12月

独立行政法人メディア教育開発センター
理事長 清水 康 敬

メディア教育研究 Vol.5 No.2 通巻第10号

目 次

「メディア教育研究」(第5巻第2号)の刊行にあたって……………メディア教育開発センター理事長 清水 康敬
特集にあたって……………メディア教育開発センター教授 広瀬 洋子

○ 特集 ○

特集：多様な学生への支援：ICTを活用した高等教育のユニバーサルデザイン—聴覚障害者への支援を中心に—

1. 高等教育における障害者支援：海外の動向とNIMEの取り組み (NIME)
…………… 広瀬 洋子…………… 1
2. ユニバーサルユーザビリティと人工物発達のあり方 (NIME)
…………… 黒須 正明…………… 13
3. 教育・就労のユニバーサルデザイン (株式会社ユーディット)
…………… 関根 千佳・今井 朝子…………… 25
4. ICTを用いた聴覚障害学生支援 (筑波技術大学)
…………… 白澤 麻弓…………… 35
5. アクティブ字幕を用いた学習環境のユニバーサルデザイン化 (大阪大谷大学)
…………… 大倉 孝昭…………… 45
6. 遠隔通信技術を活用した聴覚障害学生支援—キャンパス間連係入力方式の導入事例から— (群馬大学)
…………… 金澤 貴之・味澤 俊介・海野 雅史・上田 浩…………… 55
7. 音声認識技術を利用した字幕呈示システムの活用に関する研究
—聴覚障害者のニーズに即した呈示方法— (東京大学)
…………… 中野 聡子・金澤 貴之・牧原 功・黒木 速人・上田 一貴・井野 秀一・伊福部 達…………… 63
8. 高等教育と企業における聴覚障害者の支援環境
—ユニバーサルデザインの視点から— (同志社大学)…………… 日下部 隆則・吉田 仁美…………… 73

○ 投稿 ○

〈原著論文〉

1. 学習者のノート記述情報から再生状態を動的に調整する動画講義プレーヤー…………… 谷内 正裕…………… 85
2. ソフトウェア開発演習でのチーム編成に影響を及ぼす人的要因—SEM仮説モデルに基づく人的要因の分析—
…………… 白川 清美・橋浦 弘明・斉藤 瞳・山下 公太郎・古宮 誠一…………… 95

〈展望論文〉

1. 教育相談におけるオンラインカウンセリングの利用可能性に関する展望…………… 松田 英子・岡本 悠…………… 111

〈研究資料〉

1. 人文・社会科学分野を中心とした大学教員によるレポート実施と採点の現状に関する調査
…………… 椿本 弥生・柳沢 昌義・赤堀 侃司…………… 121

〈研究開発速報〉

1. 映像データベースとその類似検索手法の開発…………… 柳沼 良知…………… 131
2. マンガ表現法による社会的ネットワーク訓練がプレゼンテーションメッセージの
説得性に与える効果の検討…………… 鈴木 栄幸・加藤 浩…………… 137
3. 博物館におけるウェブページを利用した教育活動の現状…………… 奥本 素子・加藤 浩…………… 145

○平成16年度～平成20年度のメディア教育研究の投稿数と採択数…………… 153

○メディア教育研究等のバックナンバー…………… 154

○メディア教育研究投稿要領…………… 163
(平成19年8月1日制定)

○メディア教育研究執筆要領…………… 169
(平成19年8月1日制定)